

KOBELCO

第164期

株主の皆様へ

平成28年4月1日～平成29年3月31日

証券コード 5406

お知らせ

- 「株主様見学会参加者募集のご案内」を6ページに掲載しております。

株式会社 神戸製鋼所



代表取締役会長兼社長

川崎 博也

株主の皆様には、格別のご高配を賜わりありがたく厚く御礼申し上げます。

当期の業績と配当について

当社グループの当期の業績につきましては、後述の「業績のご報告」でご説明しておりますとおり、鉄鋼事業において高炉改修の一時費用を計上したことおよび建設機械の中国事業において滞留債権等に係る引当金を追加計上したことなどから、二期連続での最終損益の赤字を余儀なくされました。

当期の配当につきましては、業績や今後の成長に向けた戦略投資への資金需要などを総合的に考慮した結果、誠に遺憾ながら見送ることとさせていただきます。株主の皆様には、多大なご迷惑をおかけすることとなり、誠に申し訳なく深くお詫び申し上げます。事情をご賢察のうえ、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後の取組みについて

当社グループが足下で取り組むべき最大の課題は、二期連続での大幅な赤字の計上の要因となった鉄鋼事業および建設機械事業の収益構造改革であると認識しております。

まず、鉄鋼事業では、「2016～2020年度グループ中期経営計画」で掲げた収益力強化策の推進、特にその中心となる、鋼材生産の上工程の加古川製鉄所への集約について、平成29年度内の完遂と円滑な立上げに向けて全力で取り組んでまいります。また、建設機械事業では、収益悪化の主要因であった中国事業において、当社主導での販売体制の見直しと生産体制の再編により、早期の収益力強化を図ってまいります。

一方で、素材系事業、機械系事業、電力事業を3本柱とした成長戦略を一層深化させ、盤石な事業体を確立させると

早期の黒字化と復配に向けて
全力で取り組むとともに、
素材系事業・機械系事業・電力事業の
3本柱による安定収益基盤の確立と
成長戦略を積極的に進めてまいります。

いう中期経営ビジョン「KOBELCO VISION “G+”」の実現に向けた取組みも並行して進めてまいります。

具体的には「輸送機の軽量化」と「エネルギー・インフラ分野」の2つをターゲットに位置づけ、積極的に事業展開を進めております。例えば、本年5月には自動車用アルミパネル材の需要拡大に対応するため、アルミ母材の供給基地としてアルミ圧延の世界大手と合併会社設立に合意したほか、機械系事業では、エネルギー・インフラ分野をターゲットに事業戦略を進めているほか、スウェーデンのプレス装置の世界大手メーカーを買収するなど、将来の成長を支える事業基盤構築に向けた投資を積極的に進めており、今後も気を緩めることなく取り組んでまいります。

「KOBELCOの約束・Next100プロジェクト」

当社グループでは、中期経営計画の実現に向けた大型プロジェクトが本格的な実行段階に入ります。このような中、事業計画の完遂と企業価値の向上を目指すには、あらためて当社グループ社員一同が一体となることが必要と考え、「KOBELCOの約束・Next100プロジェクト」を本年4月にスタートいたしました。これは、次の100年に向けて、当社グループの企業理念を社員一人ひとりがあらためて誓い、具体的な行動に結びつけ実現させていく活動であり、現在、私自身が各事業拠点を訪問し全ての従業員に語りかけることから始めております。

当社グループは、早期黒字化と復配に向けて全力で取り組むとともに、素材系事業・機械系事業・電力事業の3本柱による安定収益基盤の確立と成長戦略を積極的に進めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年6月

当社グループは「2016～2020年度グループ中期経営計画」を策定し、素材系事業・機械系事業・電力事業の3本柱による成長戦略を一層深化させ、盤石な事業体を確立させる新たなビジョンである「KOBELCO VISION “G+”（ジープラス）」への取組みをスタートさせました。輸送機の軽量化やエネルギー・インフラなど中長期的に伸張する成長分野に経営資源を集中し、当社グループ独自の付加価値を更に高め、競争優位性を発揮していくことで事業を拡大・発展させるとともに、社会への貢献を目指します。

※当グループ中期経営計画の詳細につきましては、当社ホームページ(<http://www.kobelco.co.jp>)をご覧ください。

2016～2020年度グループ中期経営計画 基本方針	
1 3本柱の事業成長戦略	
素材系事業	輸送機軽量化への取組み 鉄鋼事業の収益力強化
機械系事業	エネルギー・インフラ分野への取組み 建設機械事業の収益力強化
電力事業	安定収益化への取組み
2 経営基盤の強化	
i) コーポレートガバナンスの強化	
ii) 人材確保・育成	
iii) 技術開発力・ものづくり力の向上	
3 財務戦略	
財務規律の維持とキャッシュ対策の実施	
2020年度達成目標	
◆ROA(経常損益/総資産):5%以上	
◆D/ELレシオ(有利子負債/自己資本):1倍以下を堅持	

※ROA:経常損益÷総資産 ※D/ELレシオ:有利子負債÷自己資本

■中期経営計画 2016年度の主な取組みの進捗

素材	電力	機械
<ul style="list-style-type: none"> 加古川製鉄所において第3高炉改修工事および連続鋳造設備の増設が完了し、2017年度の鋼材生産の上工程集約にむけて、設備面での準備完了 	<ul style="list-style-type: none"> 再参入した米国で油圧ショベル工場を稼働させ、供給体制を確立 中国油圧ショベル事業において、当社主導による生産・販売体制の再構築に着手 	<ul style="list-style-type: none"> 非汎用圧縮機の大型試験設備を立ち上げ、大型非汎用圧縮機分野へ参入 プレス装置の大手製造メーカーであるQuintus社(スウェーデン)を買収し、産業機械事業を拡大
<ul style="list-style-type: none"> 米国で自動車用アルミ押出品の生産拠点設立およびアルミ鍛造品の生産拠点の設備増強を決定 自動車用アルミパネル材製造の能力増強に向け、日本での設備増強と、日本・中国向けの母材確保のため、米Novelis社と母材生産の合併会社を韓国に設立することに合意 	<ul style="list-style-type: none"> 神戸1,2号機について関西電力との次期契約に合意 真岡発電所(栃木県)の建設工事に着手 神戸での発電所新設プロジェクトの環境アセスメントを実施中 	<ul style="list-style-type: none"> 再参入した米国で油圧ショベル工場を稼働させ、供給体制を確立 中国油圧ショベル事業において、当社主導による生産・販売体制の再構築に着手

米国のアルミ押出新拠点の鉄入れ式

真岡発電所建設の様子

米国油圧ショベル工場の開所式

■KOBELCOの約束・Next100プロジェクト

当社グループは、「KOBELCOの約束・Next100プロジェクト」の開始に合わせ、グループ全体の理念であることを分かりやすく示すため、「企業理念」を「KOBELCOの3つの約束」と呼ぶこととし、「KOBELCOの3つの約束」を果たすために、全社員が守るべき誓いとして「KOBELCOの6つの誓い」を新たに策定しました。

● KOBELCOの3つの約束

1.信頼される技術、製品、サービスを提供します 2.社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます 3.たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

● KOBELCOの6つの誓い

私たち神戸製鋼グループに属する全社員は、KOBELCOの3つの約束を果たすために、以下を宣誓します。

- 高い倫理観とプロ意識の徹底** 私たちは、法令、社内ルール、社会規範を遵守することはもちろんのこと、高い倫理観とプロとしての誇りを持って、公正で健全な企業活動を行います。
- 優れた製品・サービスの提供** 私たちは、安全かつ安心で、優れた製品・サービスを提供し、社会に貢献します。
- 働きやすい職場環境の実現** 私たちは、安全で安心して働くことができる職場環境を実現します。また、一人ひとりの人格・個性・多様性を互いに尊重し、それぞれが最大限の能力を発揮して生き生きと働ける職場環境を実現します。
- 地域社会との共生** 私たちは、グループの基盤である地域社会に貢献するよう努めます。
- 環境への貢献** 私たちは、より豊かで住みやすい社会づくりを目指して、環境に配慮した生産活動を行い、技術・製品・サービスで環境に貢献するよう努めます。
- ステークホルダーの尊重** 私たちは、顧客、取引先、社員、株主等を含む幅広いステークホルダー(利害関係人)を仲間として尊重し、健全かつ良好な関係を築きます。

鉄鋼事業部門

6,206 億円 (前年同期比 $\Delta 6.8\%$)

- 鋼材販売数量：国内の自動車向けが堅調に推移も、輸出減少のため、前期比減
- 鋼材販売価格：円高や上半期までの主原料価格下落の影響により、前期を下回る
- 鍛造鋼品売上高：海外造船向け需要の減少などにより、前期比減
- チタン製品売上高：海水淡水化プラントや化学プラント向けなどの数量減により、前期比減
- 経常損益：前期比145億円悪化の295億円の損失



高張力鋼板(ハイテン)

溶接事業部門

822 億円 (前年同期比 $\Delta 10.8\%$)

- 溶接材料販売数量：国内での建築工事の遅れやエネルギー向けの需要の低調な推移、海外での造船やエネルギー向けの需要低迷継続により、前期比減
- 溶接システム売上高：国内建築向けで自動化への投資が旺盛に推移し、前期比増
- 経常利益：前期比12億円減益の68億円

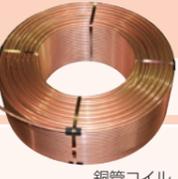


柱大組立溶接ロボットシステム

アルミ・銅事業部門

3,233 億円 (前年同期比 $\Delta 6.4\%$)

- アルミ圧延品販売数量：飲料用缶材や自動車向けの需要が堅調に推移し、前期比増
- 銅圧延品販売数量：前期比増
[銅板条]自動車用端子向け需要が増加
[銅管]エアコン向け需要が堅調に推移
- 経常利益：地金価格下落に伴う在庫評価影響の悪化などにより、前期比31億円減益の120億円



銅管コイル

機械事業部門

1,507 億円 (前年同期比 $\Delta 5.2\%$)

- 受注高：エネルギー関連業界向けの需要低迷や中国経済の減速等により、前期比8.7%減の1,282億円
- 当期末受注残高：1,278億円
- 経常利益：エネルギー関連業界向けの減少などにより、前期比8億円減益の58億円



HyAC mini-A

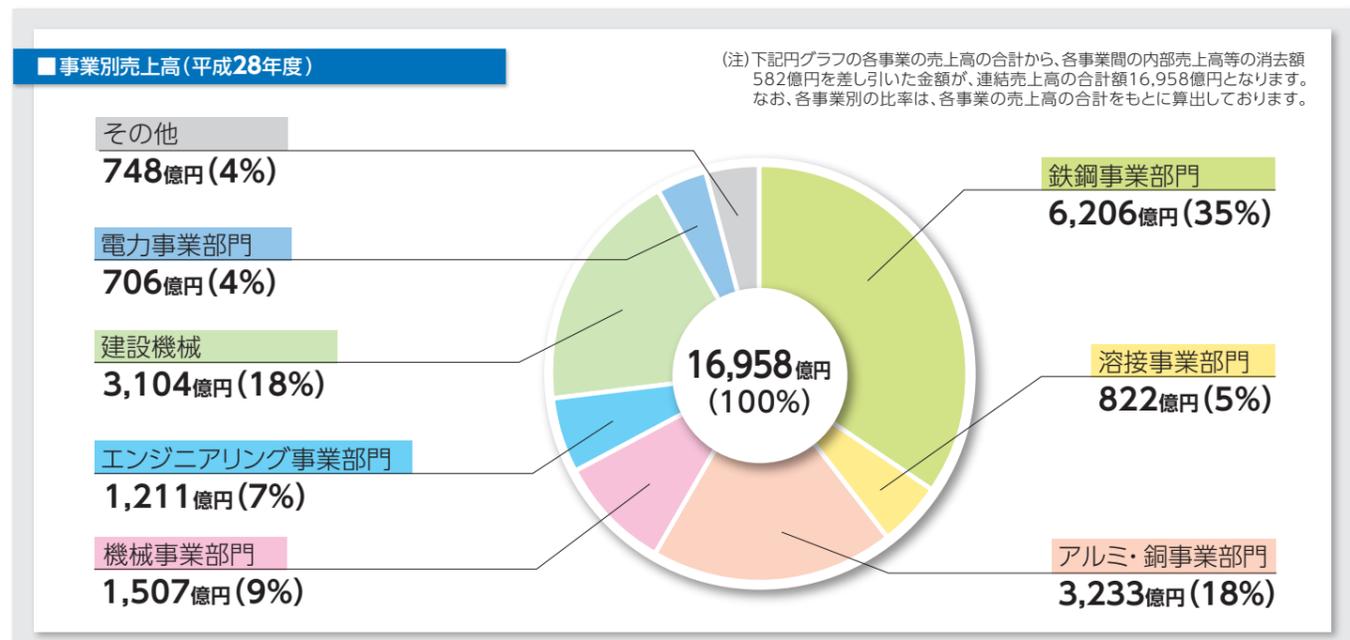
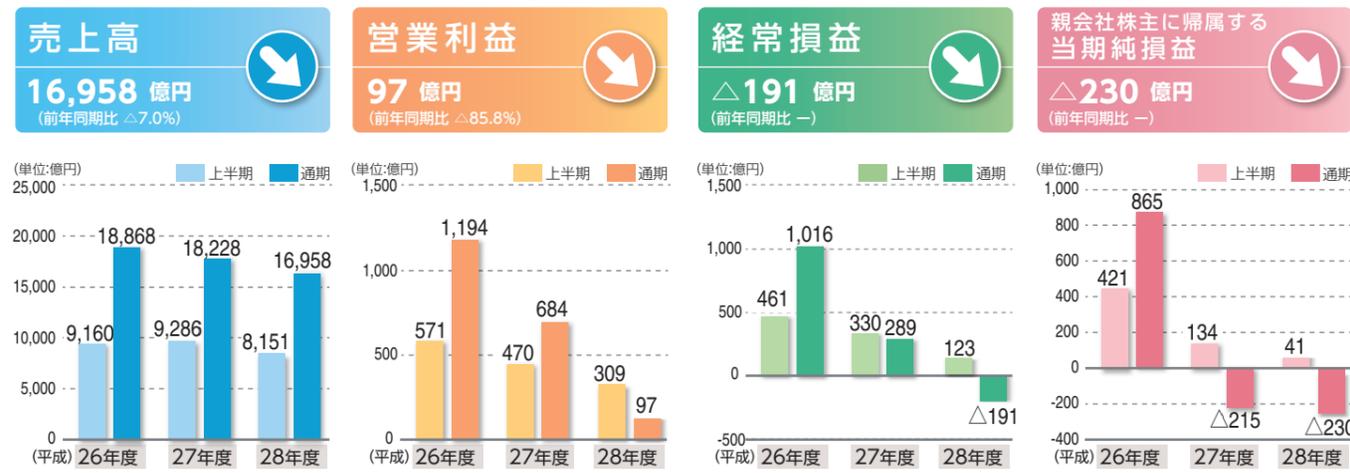
当期の概況

当社グループにおいては、鋼材の販売数量は、国内では自動車向けの需要が堅調に推移したものの、輸出が減少したことから前期を下回りました。アルミ圧延品の販売数量は、飲料用缶材向けや自動車向けの需要が堅調に推移したことから前期を上回り、銅圧延品の販売数量は、自動車用端子向けの需要が増加したことから前期を上回りました。油圧ショベルの販売台数は、国内の需要が減少したことに加え、中国で販売条件を厳格化して営業活動に取り組んだことなどから前期を下回りました。加えて、円高や原料価格の下落の影響を受け、鋼材の販売価格やアルミ・銅製品の販売価格は下落しました。

この結果、当期の売上高は、販売価格が下落したこ

との影響が大きく、前期比1,269億円減収の1兆6,958億円となりました。営業利益は、鉄鋼事業において高炉改修の一時費用を計上したことおよび建設機械の中国事業において滞留債権等に係る引当金を追加計上したことなどから、前期比586億円減益の97億円となり、経常損益は、前期比480億円減益の191億円の損失となりました。特別損益は、前期において計上した特別損失がなくなったことや当期において中国のホイールローダ事業に係る融資の引当金について戻入益を計上したことなどから、前期に比べ476億円改善の81億円の利益となりました。親会社株主に帰属する当期純損失は、前期比14億円悪化の230億円となりました。

業績ハイライト(連結)



エンジニアリング事業部門

1,211 億円 (前年同期比 $\Delta 8.0\%$)

- 受注高：廃棄物処理関連事業における複数の大型案件受注などにより、前期比34.9%増の1,742億円
- 当期末受注残高：1,799億円
- 経常利益：前期比18億円減益の28億円



MIDREX®プラント(ロシア)

建設機械

3,104 億円 (前年同期比 $\Delta 7.7\%$)

- 油圧ショベル販売台数：前期比減
[国内]レンタル向けを中心に需要減少
[海外]中国での販売条件を厳格化した営業活動により減少
- クローラクレーン販売台数：原油価格低迷によるエネルギー関連プロジェクトの減少などにより、東南アジアを中心に減少し前期比減
- 経常損益：販売台数減少や円高による採算悪化に加え、中国事業での滞留債権等に係る引当金の追加計上などにより、前期比194億円悪化の313億円の損失



ビル解体専用機
クローラクレーン

電力事業部門

706 億円 (前年同期比 $\Delta 8.0\%$)

- 販売電力量：前期並
- 電力単価：円高や上半期までの発電用石炭価格下落により、前期を下回る
- 経常利益：燃料費変動の電力単価への反映の時期ずれなどにより、前期比43億円減益の130億円



真岡発電所 完成イメージ図

その他

748 億円 (前年同期比 $+0.5\%$)

- 神鋼不動産：[分譲事業]堅調に推移
[賃貸事業]堅調に推移
- コベルコ科研：[試験研究事業]自動車向け試験研究事業の受注減
- その他の事業全体の経常利益：前期比2億円増益の76億円



ジークラブ・ジオ神戸本山

2016.10~2017.3 (平成28年10月~平成29年3月) ●鉄鋼事業部門 ●機械事業部門 ●本社

2016年10月 機械事業部門

新型オイルフリー式汎用圧縮機の販売開始

当社は、オイルフリー式汎用圧縮機の新モデル「Emeraude-ALEシリーズ」(エメロードALEシリーズ)の販売を開始しました。オイルフリー式汎用圧縮機は、油を使用せず、空気を、清浄さを保ったまま圧縮することのできるタイプのもので、清浄な空気を必要とする医薬、食品、電子機器業界等で多く使われます。本製品は、世界最高クラスのエネルギー効率と低騒音を実現するとともに、最新のIoT技術を活用し、エネルギー消費や運転状態を可視化することで、省エネ運転にも貢献する機種で、国内と海外で生産・拡販します。



新型「Emeraude-ALE」外観

2017年2,3月 本社

多様な従業員が働きやすい職場を作るための当社の取り組みが評価されました。

「健康経営銘柄2017」(3年連続)、「健康経営優良法人2017」に選定

当社は、経済産業省と東京証券取引所が、従業員の健康管理を経営的な視点から考え、戦略的に取り組んでいる企業を選ぶ「健康経営銘柄」に、3年連続で選ばれました。また、本年度から同省がスタートさせた、「健康経営優良法人認定制度」(特に優良な健康経営を実践する法人の顕彰制度)の基準を満たしたとして、「健康経営優良法人2017」にも選定されました。



女性活躍推進に優れた企業として「準なでしこ」に選定

当社ホームページではこのほかにも、様々なトピックスをご紹介します。<http://www.kobelco.co.jp>

2017年2月 鉄鋼事業部門

高生産性ホットスタンプ用鋼板の量産開始

近年、自動車メーカーでは、CO2排出規制強化に対する「車体軽量化」と、衝突安全規制強化に対する「車体の強度向上」のニーズが高まっており、様々な素材の特徴を活かして適材適所に使用する「マルチマテリアル化」が今後加速すると考えられます。鋼板では、自動車部品によって高強度化・薄肉化に資する、超ハイテン(引張強度780MPa級以上)とホットスタンプ用鋼板が使い分けされつつあります。ホットスタンプ用鋼板とは、プレス加工での加熱成形後、冷却することで高強度を得られる鋼板で、加工しやすく、また、より加工の精度が高いという特徴があります。当社は、プレスの生産性に優れた(従来比2~4倍改善)ホットスタンプ用鋼板を開発し、自動車のボディ骨格部品向けに初めて受注し、このたび量産を開始しました。当社は、この度、従来からの主力製品である超ハイテンに加え、ホットスタンプ用鋼板を供給できる体制を整えたことで、これまで以上に自動車メーカーの軽量化ニーズに応えていきます。

2017年3月 本社

「Top100グローバル・イノベーター2016」を受賞

当社は、クラリベイト アナリティクス社(旧トムソン・ロイター社IP&Science部門)が世界で最も革新的な企業・機関を選出する「Top100グローバル・イノベーター2016」を受賞しました(3年連続3回目)。同賞は、優れた研究開発活動によって独自の知的財産を生み出し、その高い技術力が評価された企業や機関を表彰する賞です。当社は、新たな価値の創造のため、積極的な研究開発を進めると共に、創出した知的財産のグローバル市場での保護と活用に取り組めます。



トロフィー授与の様子

株主様見学会参加者募集のご案内

当社は株主の皆様へ当社へのご理解を一層深めていただくために、引き続き株主様見学会を実施いたします。今回ご覧いただくのは、高砂製作所です。つきましては下記の内容にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。

開催場所	高砂製作所 兵庫県高砂市荒井町新浜2丁目3-1
対象者	平成29年3月31日現在、当社株式を1単元以上ご所有の株主様
募集人数	320名(各回80名) ※募集人数には同伴者様も含みます。
参加費	無料 ※ただし、集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。
応募方法	同封の参加申込はがきに必要な事項をご記入のうえ、ご返送ください。 ※対象者の方のみ、はがきを同封しております。 【締切日：平成29年7月14日(金)到着有効】
お問い合わせ先	株式会社神戸製鋼所 法務部 株主様見学会係 TEL 078-261-4067 受付時間 10:00~17:00(土・日、祝日、その他会社の休業日を除く)



- 以下の点につき、あらかじめご了承ください。
- 株主様見学会コースは比較的長い距離の徒歩での移動となります。途中何ヶ所か階段がございます。
 - ご応募が多数の場合、抽選とさせていただきます。抽選の結果は8月下旬頃にご通知する予定です。
 - 同伴者様は1名まで(小学生以上)とさせていただきます。なお、同伴者様がいらっしゃる場合は必ず参加申込はがきに同伴者様に関する必要事項をご記入ください。申込後に、同伴者様の追加はお受けすることができません。
 - 以下の場合、ご応募は無効とさせていただきます。
 - 株主様ご本人のご応募・ご参加でない場合
 - 同伴者様を2名以上ご記入の場合
 - 申込番号を2つ以上選択されている場合、もしくは1つも選択されていない場合
 - 株主様1名につき、2枚以上ご応募された場合
 - 株主様お名前等、必要事項のご記入がない場合

株主様見学会の概要

申込番号	開催場所	実施日時(平成29年)	集合時刻	解散予定時刻	集合・解散場所
①	高砂製作所	10月26日	8:50	13:00頃	JR加古川駅※
②			13:30	17:45頃	
③		10月27日	8:50	13:00頃	
④			13:30	17:45頃	

※詳細は、ご招待状にてご連絡させていただきます。

これまでの開催実績(過去4回分)

開催回数	日時	開催場所	募集人数	ご応募総数
第16回	平成27年 11月	高砂製作所	320人	2,202通
第17回	平成28年 3月	加古川製鉄所 コベルコ建機広島事業所	450人	2,297通
第18回	平成28年 11月	真岡製造所	240人	1,206通
第19回	平成29年2・3月	神戸総合技術研究所 神戸製鉄所	290人	3,261通

取締役および執行役員 (平成29年6月21日現在)

取締役会長兼社長(代表取締役)	川崎博也			
本社	取締役副社長執行役員(代表取締役) 梅原尚人	専務執行役員 水口 誠	常務執行役員 大久保安	執行役員 後藤 有一郎
	取締役専務執行役員 三宅俊也	常務執行役員 河原一明	常務執行役員 勝川四志彦	
鉄鋼事業部門	取締役副社長執行役員(代表取締役) 尾上善則※	常務執行役員 岡 欣彦	執行役員 永良 哉	執行役員 森 啓之
	専務執行役員 宮下幸正	常務執行役員 山本浩司	執行役員 西村 悟	
	専務執行役員 柴田耕一朗	常務執行役員 宮崎庄司	執行役員 中村昭二	
溶接事業部門	取締役専務執行役員 興石房樹※	常務執行役員 山本 明		
アルミ・銅事業部門	取締役副社長執行役員(代表取締役) 金子 明※	常務執行役員 藤井拓己	常務執行役員 磯野誠昭	執行役員 平田誠二
機械事業部門	取締役副社長執行役員(代表取締役) 山口 貢※	専務執行役員 大濱敬織	執行役員 竹内正道	執行役員 岩本浩樹
エンジニアリング事業部門	取締役専務執行役員 眞部晶平※	常務執行役員 森崎計人	常務執行役員 石川裕士	
電力事業部門	常務執行役員 北川二郎※			
取締役(非常勤)	取締役 樫木一秀(コベルコ建機株式会社取締役社長兼任)			
社外取締役	取締役 北畑隆生*	取締役 馬場宏之*		
監査等委員	取締役(監査等委員・常勤) 藤原寛明	取締役(監査等委員) 沖本隆史*	取締役(監査等委員) 千森秀郎*	
	取締役(監査等委員・常勤) 山本敬藏	取締役(監査等委員) 宮田賀生*		

※印は、各事業部門長であります。*印は、社外取締役であります。

会社の概要 (平成29年3月31日現在)

創立	明治38年9月	株主数	200,422名
発行済株式総数	3億6,436万4,210株*	従業員数	11,034名
資本金	2,509億3,003万3,900円		

※昨年10月1日付にて株式の併合(10株を1株に併合)を実施したため、当社の発行済株式総数は、3億6,436万4,210株となっております。

株式のお手続に関するお問い合わせ先

株主名簿管理人・特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

当社株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求および相続などのご相談、お手続きは、以下にお問い合わせください。

(お問い合わせ先)
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ 0120-094-777
(通話料無料(平日9:00~17:00))

※証券会社にお預けの当社株式については、お預けの証券会社にお問い合わせください。
※未受領配当金のお受取りのお手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

株式に関するご案内

「特別口座」について

現在株券をお持ちの株主様および以前株券をお持ちで現在株券の所在がわからなくなった株主様の株式は、「特別口座」で管理されている可能性がありますので、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください(お問い合わせ先は右ページに記載しております)。「特別口座」では単元株式の売買はできませんので、証券会社の口座に移管することをお奨めします。

※「特別口座」とは、平成21年1月の株券電子化の際に、証券会社に預けられていない株式を管理するために、当社が開設した口座のことです。

株式の併合および単元株式数の変更について

昨年10月1日に当社株式について、10株を1株に併合するとともに、単元株式数を1,000株から100株に変更しました。

環境への取り組みと社会との共生

神戸製鋼グループは、地球環境の保全が全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針を策定して、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

■「第4回 KOBELCO 森の童話大賞」表彰式の開催

神戸製鋼グループは社会貢献活動の一環として「KOBELCO 森の童話大賞」を展開しています。2016年度は、応募総数625件の中から、各賞12名が選ばれました。1月29日には灘浜サイエンススクエアにおいて表彰式を開催しました。金賞2作品は絵本となり、兵庫県をはじめとする後援自治体の学校や公立図書館などに寄贈しました。



受賞者



絵本(金賞作品)

※詳細につきましては、当社ホームページの専用ページ(<http://www.kobelco.co.jp/mori-ohanashi/>)をご覧ください。

■社会との共生

神戸製鋼グループは、未来を担う子供たちの成長をお手伝いするため、様々な活動を行なっています。2006年度に設立した「コベルコ地域社会貢献基金」では、神戸製鋼グループの事業所・研究所が立地する地域の子供たちを対象に、遊具や絵本、教材などを毎年寄贈しています。2016年度の対象エリアは、15市1町となりました。

また、当社は、当社が支援するNPO法人「SCIX(シックス)」が考案した球技「スペースボール」を、近隣の小学生に体験していただく際のお手伝いをしています。「スペースボール」は、子供たちの身体能力の向上やチームプレーの習得に適しており、当社が運営し、子供を含む地域の方に開放している科学館「灘浜サイエンススクエア」の見学と合わせて体験いただいています。神戸製鋼グループは、今後もこうした活動を継続し、社会との共生を図っていきます。



スペースボールを体験する子供たち



子供たちへの遊具の贈呈式

「ダイバーシティ推進」でイキイキ職場づくり

当社では、ダイバーシティ推進を経営課題の一つと考え、社員一人ひとりが生き生きと働ける職場づくりのために、まずは女性の就業継続・活躍支援に焦点を当てた取り組みを進めています。これまでキャリア継続休職制度(※1)導入や女性社員のネットワーク形成支援のための交流会開催などを行ってきました。2016年度も妊婦用の作業服の導入や管理監督職を対象に固定的性別役割分担意識(※2)からくる考え方を見直すための啓発研修などを実施しました。今後も、全ての社員が、制度やインフラなどのハード面、職場風土改革などのソフト面から様々な取り組みを進めていきます。



妊婦用作業服のデザインイラスト



管理監督職を対象とした固定的性別役割分担意識からくる考え方を見直すための啓発研修の様子

※1 配偶者の転勤などに伴う休職制度

※2 「男は仕事・女は家庭」、「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等のように、男性、女性という性別を理由として役割を分ける考え方のこと。

詳しくは ホームページをご覧ください。

KOBELCO

検索

<http://www.kobelco.co.jp>